



# 伸びよう阿曾っ子



10月品格目標：ふるさと愛

## ふるさとを愛する心を育むために

10月の品格目標は「ふるさと愛」。そこで、児童朝礼で次のようなお話をしました。

むかしむかし、岡山県が吉備の国と言われていたころのお話です。

吉備の国に百済という国から大男たちが海を渡ってやってきました。リーダーは、「温羅」と呼ばれ、ひげも髪の毛もぼうぼうの怖い顔でしたが、とてもやさしい大男でした。温羅たちは、大きな炎をあげて石よりも強い鉄をたくさんつくりました。そのころ、鉄はとても珍しいもので、まだこのあたりで鉄が作られているところはありませんでした。「温羅」たちは吉備の国に鉄づくりを伝えた優れた人だったのです。できた鉄で畑を耕すためのくわ、稲を刈るかま、弓矢の先の矢じりを作っていました。「すばらしい。こんな道具があれば、どんどん仕事はかどるなあ。」そう言って吉備の国の人たちも鉄を作るようになりました。

よその国からは、たくさんの人たちが鉄でできた道具を買いに来たため、人々のくらしは豊かになり、吉備の国はどんどん大きくなっていきました。温羅は、吉備の国の人から慕われ、「阿曾姫」という美しい姫と結婚しました。

吉備の国が大きく強くなっていくのを恐れた大和の国の人々は「吉備の国には温羅という鬼がいる。魔力を使って人間を操り、鉄を作っている。たくさんの人々が苦しんでいる。滅ぼしてしまえ!」と吉備津彦の命と大勢の兵士を吉備の国に送りました。それを聞いた吉備の国の人々と温羅は相談しました。そして戦いに備えて山の上にお城をつくりました。村長は人々を城に集めました。男の人だけではなく女の人や子どもも戦うために鍬や鉄の棒を持って集まりました。「たくさん鉄の武器があれば大和の国なんか怖くないぞ」人々は大きな声でそう言いました。そんな中、温羅は人々に「私は戦わない。戦いは悲しみと恨みをうむだけだ。それよりもこの平和な吉備の国を守るにはどうすればよいか考えよう。」とよびかけました。

大和の国から来た吉備津彦の命は多くの兵士をつれて城に登ってきました。ところが、山は静まり吉備の国の人々は戦おうとはしません。吉備津彦の命が城で見たものは、鬼ではなく、人間の姿をした温羅でした。温羅は言いました。「私の名前は温羅。私の命と鉄の武器を大和の国の王にささげます。その代わりに美しい水や空気があり、人々のすぐれた知恵と勇気、優しい心でいっぱいの吉備の国をいつまでも守ってください。お願いします。」温羅の思いに心をうたれた吉備津彦の命は、大きくうなずきました。

ところが、その時でした。「だまされるな!」と言って一人の兵士が射た一本の矢が温羅の胸に刺さりました。温羅はきじに姿を変え、飛び立ちました。吉備津彦の命も鷹に姿を変え、約束を誓うために温羅を追いかけてきました。大きな傷を負い、力尽きた温羅は川に落ち、鯉に姿を変えました。すると、川の水は温羅の血で真っ赤に染まりました。

吉備津彦の命は、温羅との約束を守り、大和の国の王に鬼は滅びたと伝えました。そして、吉備の国の人々を大切に守りました。吉備の国の人々はそれから、暮らしに必要な鉄の道具を作り、米や作物がとれたので、どんどん栄えました。

このお話は皆さんがよく知っている昔話、桃太郎のもとになったお話です。このお話に出て来る「温羅」とは、鬼ではなく吉備の国に鉄づくりを伝えた百済という国からやってきた優れた人々のことです。山の城とは、皆さんよく知っている鬼ノ城のことで、鯉の血で赤く染まった川というのが血吸川のことです。桃太郎のお話は私たちがいるこの阿曾地区を舞台としているお話だったのです。

阿曾地区は、昔から美しい水や空気があり、すぐれた知恵と勇気、優しい心でいっぱいの人々が住むところだったそうです。そんな阿曾に住んでいる皆さんの心の中には知恵と勇気、優しさがつまった「心の種」があります。その種を友達と支え合いながら少しずつ少しずつ育てていきましょう。

引用：「温羅と桃太郎 新・吉備路のおはなし」 著者・なんばみちこ より



## 陸上記録会

10月1日(水)に総社市学童陸上記録会がありました。まだまだ暑さが厳しい2学期のはじめからこつこつと練習を重ねてきました。市内のたくさんの学校の6年生との競技でしたが、どの子も阿曾小学校の代表らしく堂々と頑張る姿が立派でした。10月末には修学旅行、11月にはたたらずくり等、行事が目白押しです。卒業まで残り半年となりました。仲間たちとたくさんの思い出をつくってほしいと思います。



## ふれあいスポーツ大会がありました

10月4日(土)に厚生部主催のふれあいスポーツ大会がありました。子どもも保護者もいっしょにしっぽとりをしました。子ども達は汗まみれになりながらしっぽを取られないよう走り回りました。保護者も参加しましたが、子ども達のすばしっこさにはかなわず次々としっぽをとられてしまいました。雨が降っていましたがたくさんの参加者があり、たいへん楽しいひと時を過ごすことができました。最後に参加賞をもらいたくさんの笑顔が見られました。お忙しい中、準備や進行をしてくださった役員の皆様、ありがとうございました。

